

平成 23 年度

学生のおもしろ企画

活動報告書

「二畳の茶室 2011」

広島大学大学院工学研究科 建築設計学・建築史意匠学研究室

広島大学茶室研究会

代表：岡本 彩奈

■ 概要

「二畳の茶室 2011」は、今日体験する機会の少なくなった茶室や茶会を、老若男女様々な方々に体験して頂くことを目標に掲げ、2008年から始まり、今年度で4回目となる企画です。今年度の「二畳の茶室 2011」では、これまでの「二畳の茶室」の流れをふまえ、さらに広島大学大学祭の目玉イベントとなる事を目標に、新たな茶室制作を計画しました。

所在地 広島大学東広島キャンパス 工学部 A1 棟西側空き地

用途 茶室

設計 広島大学茶室研究会

施工 広島大学茶室研究会

工程 設計期間 2011年6月1日～2011年10月4日

施工期間 2011年10月5日～2011年11月4日

開催期間 2011年11月5日～6日（平成23年度広島大学大学祭期間中）

10:00～17:00

2011年11月7日～8日

10:00～17:00

来場者数 計120名 内0名（11月5日） 30名（11月6日）

32名（11月7日） 58名（11月8日）

合計 収入 238,000円（A）

支出 238,088円（B）

収支合計（A-B） -88円

※ 詳細については会計報告書参照

企画概要

■ 本企画の趣旨

私たち建築計画グループでは、様々な用途・規模の空間についての設計・研究をおこなっています。その中で、二畳の茶室は建築における最小限空間であり、現代ではほとんど体験することのできない日本特有の伝統的な空間です。そしてまた、茶道も日本の伝統的文化です。

本企画は、このように現代の生活の中で失われつつある日本の伝統的空間を制作し、そこで茶会を開く事で、老若男女、幅広い層の来場者に空間と文化に触れて頂き、私たちが日々学んでいる建築に興味を持って頂くことを目的としています。特に子どもたちにとっては、ほとんど茶室・茶道というものを体験した事がないと考えられ、大変有意義な企画になると考え、企画しました。

本企画の目的は以下の3つです。

1. 日本の伝統的空間に触れる。
2. 日本の伝統的文化に触れる。
3. 来場者に私たちが学ぶ建築に興味を持って頂く。

■ 組織

【広島大学茶室研究会】

代表：岡本 彩奈 (M2) 建築設計学研究室

作図：中村 洋輔 (M2) 同上

構造：濱田 大樹 (M2) 同上

広報：堀川 佳奈 (M2) 同上

発注：島津 亮介 (M2) 同上

会計：信楽 佳孝 (M2) 建築史・意匠学研究室

設計・施工・運営：広島大学茶室研究会

■ 敷地

工学部 A1 棟西側空き地（ぶどう池周辺）

- ・ 毎年この敷地で開催しており、わかりやすい。
- ・ 大学祭においてスタンプポイントに近く、人通りが多い。
- ・ 芝生や木々に囲まれ、程よい広さがあり、自然を感じられる場所である。

以上のように、毎年この企画を楽しみに来てくださる来場者への配慮や、大学祭での認知性の高さ、自然を活かした茶室空間の演出が可能であることなどから、今年もこの地を選定しました。



■ 制作場所

工学部 A1 棟地下部分、及び A2 棟地下部分

- ・ 設営場所に近く、制作・保管における十分な広さ、工作音や木屑の処理の利便性からこの場所を選定しました。
- ・ 昨年度までは A1 棟地下部分のみを利用していたが、今年度はスペースがより必要となったため A2 棟地下部分も制作場所として利用しました。A2 棟地下部分は、実験室など頻繁に使用される部屋が多くあったため、接着・組み立て作業にて利用し、工作音に配慮しました。作業の詳細については後述します。



活動概要

■ 検討 <基本設計>

設計期間 2011年6月1日～2011年10月4日

「SD レビュー2011 第30回建築・環境・インテリアのドローイングと模型の入選展」
(鹿島出版主催)に出展しました。(提出書類は別資料1を参照)

【SD レビュー2011 概要】

「SD レビューは、実際に「建てる」という厳しい現実の中で、設計者がひとつの明確なコンセプトを導き出す思考の過程を、ドローイングと模型によって示そうというものです。実施見込のないイメージやアイデアではなく、実現作を募集します。」

提出物：設計意図を説明するために必要と思われる図面等 (A3用紙4枚以内)

応募期間：2011年6月20日～24日

審査員：隈研吾 渡辺真理 小泉雅生 金田充弘

出展後もさらなる空間性の追求や、施工面・構造面・予算面などを含めて検討を加え、設計変更を行いました。

実寸台でのデザイン検討

ベニアの厚さを4mm+4mmと5.5mm+5.5mmの2パターンで構造板2枚分を制作し、厚さの違いや、接合部の強度、施工、デザインについて検討した。

この時点で、これまで想定していた板厚4mmでは強度が十分に得られないことが判明したため、板厚5.5mmのものを用い、板同士のスパンを広めに変更する事で、予算との調整を行った。



■ 施工

施工期間 2011年10月5日～2011年11月4日

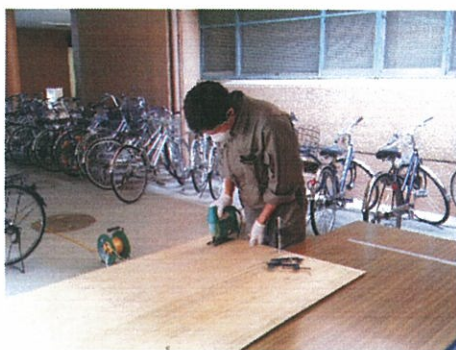
<けがき>

ベニア1枚ごとに制作した型紙を張り付け、えんぴつでけがいていった。



<加工>

けがき線に従ってジグソーで切断して加工いく。直線部分は金尺を当て直線用の刃を用い、曲線部分は円切り用の刃を用いて丁寧に加工を行った。



<張り付け・養生>

表4枚、裏4枚を互い違いに重ねてウレタンボンドで接着を行い、構造板1枚を制作していった。板同士の継ぎ目の部分を重点的に接着し、作業過程でずれてしまわないように配慮した。接着の強度を確実にするために1日以上養生した。



<穴あけ>

構造板2枚ずつを中心線を頼りに重ね合わせ、板同士の継ぎ目まわり10カ所にバランスを見ながら穴開けを行った。ルールに基づき作業を行ったため、構造的にもデザイン的にもバランスよく穴あけをすることができた。



<組み立て>

穴あけした箇所を、加工した長ねじとナット、ワッシャーで固定し組み立てていった。10カ所のスパンが均等になるように、慎重に行った。



以上の工程を、構造板3枚ごとに繰り返し行い、制作していきました。

<やすりがけ>

重ね合わせた板同士のズレをジグソーや金やすりで滑らかにし、最後に電動ザンダーや紙ヤスリで怪我のないように滑らかに仕上げた。



<敷地での組み立て>

3枚ずつ制作したものを敷地で組み立てていった。個別では自立が難しい構造をしており、また重量面からも施工が困難であったため、作業工程を充分検討してから、作業を進めた。



<解体・撤去>

11月9日に解体・撤去作業を行った。

使い終わった構造材や鋼材、畳等は来年度にも再利用できるように保存作業を行った。

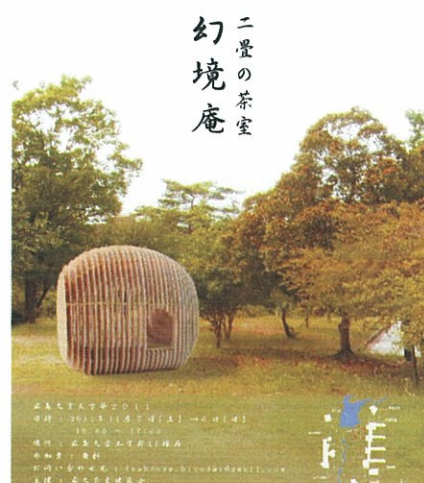
■ 広報活動

本企画をより多くの人に知って頂くために、デザインコンセプトを統一したポスター制作・掲示に加え、今年度からはホームページを立ち上げました。ホームページには、今年度の茶室に関する情報の他に、過去の「二畳の茶室」についても触れ、これまでの系譜を分かりやすく提示しました。

以下に広報活動の内容を記載します。

- ・ポスター制作
- ・学内への掲示（A2 サイズポスター）
- ・飲食店などの学外掲示
（A2・A3 サイズポスター）
- ・ホームページ作成

(<http://teahousehiroshima.web.fc2.com/>)



■ 多くの連携

このプロジェクトは、建築を学ぶ私たちだけではなく、大学内外の多くの方々にご協力頂いてつくっていくものでありたいと考えています。そのため、建築的な視点から考えるだけでなく、茶道がつくり出す「お茶の世界観」もふまえて考えていこうと、広島大学茶道研究会の方々に協力を頂き、私たちに作法や茶道具の配置などをご教授頂きました。ご教授頂いたおかげで、今年はメンバー全員がお手前をできるようになり、当日スムーズにお茶会を運営する事が出来ました。

また、お茶会で使う水も賀茂輝酒造の方々にご協力頂き、お酒をつくる井戸水を提供して頂くことで、地域との連携を図る事ができました。

お茶碗と花入れも自分たちで作成し、実際にモノをつくる、使うことにより茶道を深く追求しようと思いました。



■ 展示・茶会

期間 2011年11月5日～2011年11月8日

11月5日（大学祭1日目）

大学祭1日目の11月5日は、朝から雨が降り続き、天気予報でも5日～6日にかけて雨マークが続いていました。一時は敷地に組み立てた茶室を解体し、「モノづくり・ヒトづくり2011」と合同で、ガレリア下での開催も検討しましたが、雨天での解体作業の困難さや、想定していた周辺環境との違い、地面の不安定さやスペース確保の難しさから諦めざるを得ませんでした。しかし、大学から助成を受けており、また私たちとしても力を注いで制作に取り組んできた茶室での茶会を諦めきれず、大学祭の2日間に加え、11月7日～8日も追加で茶会を開催することを決定しました。

そこで1日目は、雨天中止によるお詫びと追加茶会決定のポスター制作、フライヤー制作、ホームページの書き換えや、ビラ配りにより広報活動を行いました。



11月6日（大学祭2日目）

大学祭2日目も午前中は雨が降っていましたが、午後からは次第にやみ始め、お茶会を開催することにしました。ブルーシートを外し、準備を進めていると、たくさんの方が足を止め、お茶を飲んで行かれたり、見学だけでもして行っていました。

大学祭でなかなか体験して頂けないであろう親子連れや年配の方、他大学の学生など幅広い世代の方々に来場して頂くことができました。

11月7日～8日（追加茶会）

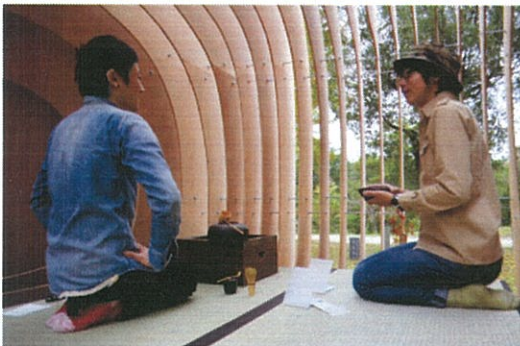
追加茶会の日も天候にも恵まれ、工学部の学生だけでなく、ビラ配りの効果からか他学部の学生や事務職員の方、大学教授の方などにも来場して頂きました。また、オープンキャンパスなのか、多くの中学生が通りかかり、不思議な形をした茶室に足を止めて、内部空間や建築学科に興味を持ってもらう事ができました。

4 日間を振り返って

今年度の「二畳の茶室 2011」は、大学祭期間中は天候が思わしくなく、大学祭の 2 日目と平日の 2 日間に渡って展示・お茶会を行いました。最初はどうかと思いましたが、大学祭でしか出会えない方、そして平日でしか出会えないであろう方々に、私たちの茶室を体験して頂き、多くの方からよい評価を頂くことが出来ました。こちらから積極的に話しかけることで、質問を投げかけてくれたりと交流でき、制作者としてとても有意義な時間になりました。

■展示・茶会風景





【謝辞】

まず、天候が思わしくない中、茶室に足を運び、お茶を楽しんで頂いた来場者の皆様に深く感謝致します。

また、後見教官として本企画に寛大に協力して頂いた岡河貢准教授をはじめ、木材を提供して頂き、設計・施工の相談に乗って頂いた西条木材の皆様、お茶やお茶菓子について相談に乗って頂き、提供して頂いた平野園の皆様、茶道具を貸して頂き、ご指導して頂いた茶道研究会の皆さん、茶道具やお茶会のための井戸水を提供して頂いた賀茂輝酒造の皆様、その他、お手伝いして頂いた方々に心から感謝いたします。

最後に、本企画は広島大学大学祭学部等企画及び学生のおもしろ企画の助成により実施することができました。記して謝辞を表します。

平成 23 年 11 月 25 日
広島大学茶室研究会 一同